

第 30 期（令和 6 年度）事業報告
（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）

全体報告

池田記念美術館は開館 26 年目、公益財団法人としても 11 年目を迎えました。

南魚沼市との間で取り交わした期間 10 年（平成 26 年度～令和 5 年度〈2023〉）の管理運営に関する協定は令和 6 年 3 月末で満期となり、新たに期間 10 年の協定書を締結し、引き続き南魚沼市との連携・協力を高め、魚沼地域の文化芸術活動の向上と普及に貢献することになりました。

令和 6 年 5 月 15 日の第 1 回理事会は美術館を会場に開催し、第 29 期の事業・決算報告が承認されました。同じく美術館で開催された 6 月 18 日の定時評議員会では第 29 期貸借対照表・損益計算書・財産目録につきそれぞれ承認されました。また、令和 7 年 2 月 25 日の第 2 回理事会は東京での開催となり、第 31 期（令和 7 年度）事業計画及び収支計画などにつき承認されました。

開館以来四半世紀となり、館内の各種設備も経年劣化や故障箇所が目につくようになり、南魚沼市の費用負担によって 3 年計画 2 年目の LED 交換工事を執り行いました。これにより、展示室の LED 化は完了しました。工事は令和 7 年度が最終年度となり、全館の LED 化が終了する予定になっています。

原油価格の高騰によって大幅に増加した光熱費（電気代・灯油代）対策として、令和 6 年 8 月から電気需給契約をそれまでの「東北電力」から「ゆきぐに新電力」に変更しました。また、令和 4 年度から開館時間を変更し、冬期間（1 月 1 日～3 月 31 日）の開館を 9 時 30 分～17 時としましたが、令和 6 年度も引き続き継続しました（他の期間は従来通り 9 時～17 時）。

【展覧会について】

全国区で通用する注目の展覧会として、①南魚沼市と協力して実現した「葦崎大村美術館所蔵品展」、②日本を代表する写真家・北井一夫の写真展「写真の旅人」、③現代美術の作家 40 人の作品と地元の子どもの作品を共同展示する展覧会として各方面から高い評価を得た「八色の森の美術展+子ども絵画展」、④高校生がキュレーションした美術展として教育関係者から注目された「高校生が料理する探究美術展 アート試食会」を開催しました。

地域の文化活動の促進に寄与するための企画として、25 回記念となった「八海山夢展」を開催。また、地域の児童生徒の県ジュニア展入選作品を「八海山ジュニア展」として展示。冬には、子どもたちの作品を紹介する「南魚沼郡市児童生徒美術展」、地元魚沼の写真愛好家を中心にした「ベストショット展」を開催し、地域との連携を深めることができました。

【各種補助金・支援金、助成金】

南魚沼市から「葦崎大村美術館所蔵品展」の作品搬入・搬出費用に対して、新潟県から県民文化活動推進事業として「第8回八色の森の美術展」に対して、内田エネルギー科学振興財団から「八海山麓スキー場での夏と冬のイベント」に対して、補助金・助成金がありました。

南魚沼市	「葦崎大村美術館所蔵品展」	2,261,620 円
新潟県	「第8回八色の森の美術展」	1,000,000 円
内田エネルギー科学 振興財団	地域活性化活動・再生活動事 業費として	200,000 円

【年間パスポート】

平成28年度から発行している年間パスポート（3,000 円）の会員数は49人、平成30年度から新たに開始した法人パスポート（10,000 円）の会員数は10件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成30年度から始めたドリンクチケット（5杯つづり1,000 円）は年間198枚の需要がありました。

【入館者数】

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者数（人）	有料入館者数（人）
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905
24期（H30年度）	16,193	5,681
25期（H31年度）	16,309	5,207
26期（R2年度）	10,452	3,902
27期（R3年度）	13,307	4,965
28期（R4年度）	12,752	5,451
29期（R5年度）	13,371	4,696
30期（R6年度）	13,049	4,030

地元園児の春（4月～6月）の来館が前年に比べて約400人減少したこと、LED交換工事のため12月の開館日数が13日間だったこと、豪雪のため2月の入館者数が減少したことで伸び悩み、入館者数はほぼ前年並みとなりました。

【アウトリーチ事業】

地域や学校と連携・支援する美術館の活動として、好評の哲学対話ファシリテーター養成講座を開催したほか、八海山麓スキー場で開催されたイベント「八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー」に協賛・参加しました。「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として8月に東京から作家を招いて学童クラブと小学校、中学校で出前授業（造形遊びのワークショップ）を実施しました。また、高校生の探究活動を支援する事業を継続。秋開催の「高校生が料理する探究美術展 アート試食会」の実現につなげました。3月には、八海山麓スキー場ホワイトカーニバルにおいて、「錯覚展」の杉原厚吉先生においでいただき、スキー場に「雪の錯覚すべり台」を地元住民と高校生の協力で制作しました。

哲学対話ファシリテーター養成講座

■4月27日～28日

若者に学びの場を提供している「愛みらい塾」と連携して、立教大学の河野哲也先生を招聘。27日に「哲学対話」、28日には「哲学対話ファシリテーター養成講座」を実施しました。

八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー

■7月21日～8月17日

今回で4回目の開催となったイベント「八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー」に協賛・参加し、グルグルハウス高柳から借用した風ぐるま約2,000本を、地元の子どもから大人まで、約50人のボランティアでゲレンデに設置。柏崎市在住の作家・たかはし藤水氏のインスタレーション作品「赤坊主」とのコラボは大好評でした。

出前授業

■8月5日 浦佐小学校学童クラブ

■8月6日 浦佐小学校学童クラブ

■8月19日 大和中学校美術部

■8月20日 赤石小学校・三用小学校学童クラブ、ほっかキッズ

■8月29日 後山小学校

「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として出前授業を実施。参加者は合計125人。講師は東京在住の版画家・佐藤未来さん。子どもたちの作品は会期中、館内に展示しました。

外部依頼ワークショップ

■8月24日

東京都小金井市の子供会から依頼を受け、オリジナルポストカードを作るワークショップを当館で開催しました。参加者は238名でした。

■11月17日

南魚沼市立栃窪小学校を会場に開催された「塩沢学びフェス in 栃窪」から依頼を受け、ワークショップを実施。講師として佐藤未来さんを派遣。親子で21人が参加。

高校生の探究活動支援

「これからの美術館は作品をただ展示するだけではなく、作品を媒介に思考・対話する教育現場としても機能する必要がある」と考え、2017 年から「八色の森の美術展」を開催し、子どもたちの造形活動への支援や現代美術の鑑賞を通した哲学対話を実践。その一環として、令和 5 年 7 月からは高校生の探究活動の場として美術館を提供し、座学やワークショップを実施しながら美術鑑賞の多様性や解釈の多義性、美術の楽しさなどについて学ぶことができました。その成果として「高校生が料理する探究美術展 アート試食会」を秋に開催。展示方法や配置、ユニークな鑑賞法などによって、来館者に作品をどう鑑賞してもらいたいのか、探究活動に参加した高校生が大胆に提案しました。

一箱古本市@池田記念美術館

■8 月 4 日～25 日、1 月 6 日～19 日

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。出店は約 20 店。個性的な古本を楽しめると好評でした。1 月の雪見展でも開催しました。

雪見展

■1 月 12 日～13 日（対面販売）

■1 月 14 日～19 日（無人販売）

真冬のクラフトマーケット。雑貨やパンなどのショップ、キッチンカーが並び、「南魚沼郡市児童生徒美術展」鑑賞と共に、家族で楽しめるイベントとして開催してきました。フリーマーケットが少ない冬に開催することから近隣地域以外からの出店も増え、2 日間の対面販売では 1,539 人の来館者があり、集客増を図りました。

八海山麓スキー場ホワイトカーニバル

■3 月 9 日

錯視研究の第一人者で明治大学特別教授の杉原厚吉先生が設計した「雪の錯覚すべり台」を地元住民と国際情報高校の生徒の協力を得て制作・公開しました。当日は TBS 全国放送「ひろおび」の取材が入り、スキー場の錯覚すべり台と美術館での「錯覚展」を撮影。3 月 28 日に放映されました。

【ベースボール・マガジン社新潟支社との連携】

総合型地域スポーツクラブ「スポーツ&ライフ南魚沼」と連携して、美文字講座、エアロヨガ教室を実施。8 月からは、タロット占い講座も開講しました。

【新潟日報社との連携】〈施設提供〉

新潟日報社が運営するカルチャースクールの会場として毎月 2 回、休館日（水曜日）に施設を提供。仏像彫刻、ハーモニカ、太極拳の教室を開催しました。

【事業収益の内容】

以下は、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料 収入	企画事業 収入	カードショ ー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	施設 使用料	合計（円）
20 期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938			15,857,689
21 期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161			15,270,527
22 期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829			12,206,440
23 期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996		8,866,627
24 期	3,812,030	819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000		8,241,056
25 期	3,722,840	4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000		12,975,430
26 期	2,392,850	3,155,953	0	1,439,454	460,938	40,000		7,489,195
27 期	2,828,600	3,125,372	1,342,050	1,264,918	556,494	38,000		9,155,434
28 期	3,153,550	3,594,090	1,539,100	2,734,715	584,759	15,064		11,621,278
29 期	2,460,580	3,614,973	0	900,511	515,460	2,364	518,900	8,012,788
30 期	2,215,500	3,038,039	510,500	1,382,860	569,090	0	697,580	8,413,569

これまで施設使用に関する収入（新潟日報カルチャースクール、雪見展など）を「入館料収入」として計上してきましたが、第 29 期より「施設使用料」の項目を新設して、より厳密化しました。また、23 期以降の委託販売手数料は「ベーマガ米」の販売手数料ですが、第 30 期より「売店収入」に移行しました。

※ 第 20 期（平成 26 年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制 10 周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が 3 本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第 21 期（平成 27 年度）は絵画 1 点の委託販売料（224 万円）と、新潟大学・南魚沼市との共同企画（魚沼一記録と記憶の再生プロジェクト）が文化庁の助成を得たため（333 万円）企画事業収入が増加しています。

第 22 期（平成 28 年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第 23 期（平成 29 年度）は前期と比較して、1 月～2 月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第 24 期はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第 25 期の企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入増によるものです。

第 26 期はコロナ禍でカードショーが中止になったため収入がありませんでした。

第 27 期はカードショーを年間 3 回開催したことによりカードショー収入が例年通りの数字となりました。

第 28 期の売店収入の増加は絵画作品の売上げによるものです。

第 29 期は販売カードの売れ切れのため、カードショーを実施できませんでした。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業などにつき説明いたします。

1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

公募により、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流事業に対して援助（1 件 10 万円、2 件以内）となっていますが、応募はありませんでした。

2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

申請のあった下記事業に対して援助事業選考委員会にて審査並びに選考した結果、助成額 10 万円を交付しました。なお、論文が完成次第、提出されます。

申請者：島田 達人（新潟経営大学准教授）

研究テーマ：プロ野球のファーム球団の拡大が「育成」「強化」「普及」に及ぼす影響に関する研究～球団数を拡張した台湾プロ野球と日本プロ野球を対比して～

選考委員会メンバー

理事長 池田哲雄

理 事 宮内孝知

学識経験者 三浦基裕（元日刊スポーツ新聞社社長、元佐渡市長）

事務局 高橋良一

3、美術館事業

1) 企画展覧会

「スポーツ文化展示室」「小泉八雲文学資料室」での常設展示のほか、以下の企画展を開催しました。

① 南魚沼市市制施行 20 周年記念事業

北里大学健康科学部開設記念「葦崎大村美術館所蔵品展」

■会期：4 月 6 日（土）～5 月 17 日（金）

（開館日数 36 日、入館者数 1,440 人）

北里大学健康科学部の開設を記念して、2015 年ノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士（北里大学特別栄誉教授、女子美術大学名誉理事長）が長年にわたって収集された女性作家 61 人の作品 97 点を展示。南魚沼市市制施行 20 周年記念事業として開催しました。

4月14日 大村智博士講演会「私が愛する美術コレクション」

4月27日 ヴィヴィアン佐藤講演会「ジェンダーの視点から見たアートの世界」

4月27日～28日 立教大・河野哲也教授の哲学対話と哲学対話ファシリテーター養成講座

② アートスペース シモダ 所蔵写真展 北井一夫「写真の旅人」

■会期：5月25日（土）～7月7日（日）

（開館日数 38 日、入館者数 1,178 人）

北井一夫氏は日本が世界に誇る写真家のひとり。1944 年、中国・旧満州生まれ。日本大学芸術学部写真学科中退。ドキュメンタリー写真を発表する一方、1970 年から全国各地の見知らぬ土地をたずねて、人々の暮らしや風景をアサヒグラフやアサヒカメラに雑誌掲載。のちに写真集『村へ』『いつか見た風景』として刊行。72 年に第 22 回日本写真協会新人賞、76 年には第 1 回木村伊兵衛写真賞を受賞。今回の写真展は、北井一夫の写真数百点を所蔵する「アートスペース・シモダ」のコレクションの中からヴィンテージプリントを厳選し、北井一夫氏の初期から現在までの作品約 300 点を一挙公開しました。

5月25日 トークショー「写真と旅」 北井一夫×石井仁志

6月22日 ギャラリートーク「作品鑑賞」北井一夫×下田賢司×石井仁志

6月23日 トークショー「1970 年代の写真とのら社」北井一夫×橋本照嵩×金丸裕子

③ 第 25 回記念 八海山夢展

■会期：7月13日（土）～8月31日（土）

（開館日数 43 日、入館者数 3,085 人）

魚沼在住の美術愛好家を中心に、地元の美術振興を目的に創設され、今回は 25 回目の記念展となりました。絵画・書道・写真・水石・工芸の 5 部門で募集し、96 名が出展、119 点の作品を展示しました。主催は八海山夢展実行委員会。会期中、各部門でイベント「美のツボ」を実施し、25 回記念の記念事業として講演会とコンサートを企画しました。

7月13日 記念講演会 徳永健一「これから美術館に期待するもの」

ミニコンサート 遠藤容子×渡辺豊子

④ 〔同時開催〕第 7 回 八海山ジュニア展

■会期：7月13日（土）～8月31日（土）

「第 25 回八海山夢展」と同時開催。令和 5 年度新潟県ジュニア美術展覧会に入賞した南魚沼市と魚沼市の児童生徒の作品を展示しました。

⑤ 第 8 回 八色の森の美術展+子ども絵画展 2024

■会期：9月7日（土）～10月27日（日）

（開館日数 44 日、入館者数 1,720 人）

全国各地から、現代美術の世界で活躍する作家 40 人が出品し、地元の子どもの作品と一緒に共同展示するという画期的な試みと、基調講演・文化講座・ワークショップ、鑑賞型哲学対話などの関連イベントによって各方面から高く評価されています。タイトルは「芸術の直

観〈他者を存在させるために〉」。2017年の第1回開催以来、連続8回目となり、当初の予定通り今回はFinal展となりました。

9月7日 出品作家の作品解説会

9月7日 基調講演 谷川渥「絵画の無何有郷（むこうきょう）」

9月8日 ワークショップ「誰かとつながる不思議な実をつくろう！」講師：佐藤未来

10月25日～26日 ワークショップ「鑑賞型哲学対話」講師：河野哲也

10月27日 文化講座 山梨俊夫「絵画のリアリティ」

車座シンポジウム「八色の森の美術展を振り返って」司会：河野哲也

⑥ 高校生が料理する探究美術展「アート試食会」

■会期：11月7日（木）～12月15日（日）

（開館日数34日、入館者数1,196人）

地域と連携して活動する美術館構想のもと、令和5年7月からスタートした企画。高校生が主役となって、内容、名称、宣伝、展示など美術展開催にあたっての全ての課題を、1年間にわたって対話や議論を通して決定・実践するという前例のない美術展となりました。「アートスペース・シモダ」「山田令三氏」が所蔵する内外の貴重なコレクションのほか、「八色の森の美術展」参加者の作品、当館所蔵作品、高校生制作のワークショップ作品などを展示。会期中に当館で学会が開催され、高校生が本展に関する発表を実践するなど、美術館の新たな未来像を提示してくれました。

11月9日 文化講座 ヴィヴィアン佐藤「映えるって??」

ワークショップ「抽象から具象をつくろう！」講師：ヴィヴィアン佐藤

11月17日 第16回美術教育実践学会研究大会

11月23日 ワークショップ「鑑賞型哲学対話」講師：河野哲也

11月30日 ワークショップ「オーラの似顔絵」講師：ヴィヴィアン佐藤

12月1日 ワークショップ「ヘッドドレスをつくろう！」講師：ヴィヴィアン佐藤

12月6日 高校生による企画展解説・作品鑑賞会

文化講座 吉田 恭「世界を冒険する方法」

※LED化工事 12月16日（月）～12月24日（火）

今年度は、多目的ホール、展示室Ⅰ、展示室Ⅱ、小泉八雲資料室、廊下の照明を改修。

令和7度は3年計画の最終年度でバックヤード（事務所・収蔵庫等）を中心に実施します。

⑦ 第69回 南魚沼市児童生徒美術展

■会期：1月6日（月）～1月21日（火）

（開館日数14日、入館者数2,712人）

南魚沼市と湯沢町の児童生徒の作品（絵画、デザイン、版画、立体）431点と教職員の作品を展示しました。会期中は、入館料を無料にし（南魚沼市・湯沢町の補助あり）、クラフトマーケット雪見展と一箱古本市などのイベントを開催。親子で美術館を楽しむ期間とし、多くの来場者がありました。

⑧ 魚沼ベストショット展 Part 14

■会期：1月25日（土）～3月9日（日）

（開館日数 38 日、入館者数 980 人）

美しい風景の宝庫・魚沼に魅せられた写真家が自慢のベストショットを展示する写真展。今回で 14 回目となり、魚沼地域だけでなく、市内外から 39 人が出展、59 点の写真を展示しました。第 8 回錯覚展と同時開催でした。

作品解説会を 1 月 25 日（土）と 2 月 8 日（土）に開催、合計で 38 名が参加しました。

⑨ 冬季特別展示 第 8 回 錯覚展 2025

■会期：1月25日（土）～4月5日（土）

（開館日数 57 日、入館者数 1,930 人）

東大名誉教授、明治大学研究特別教授で、世界ベスト錯覚コンテストで何度も優勝実績のある錯視研究の第一人者、杉原厚吉先生の錯覚をテーマにした展覧会。二科展に入選した作品を含む新作作品を展示しました。3 月 9 日には八海山麓スキー場のイベントで雪の錯覚すべり台を制作。今年は TBS テレビ情報番組「ひるおび」で杉原先生が取り上げられ、雪の錯覚すべり台と、池美の錯覚展が全国ネットで紹介されました。

⑩ 池田記念美術館収蔵品展―手仕事の美しさを味わう―

■会期：3月15日（土）～4月5日（土）

（開館日数 19 日、入館者数 950 人）

池田記念美術館には日本の染色工芸家・人間国宝の芹沢銈介の型絵染作品が多数収蔵されています。今回の収蔵品展では芹沢作品『張子いろいろ』『新版絵本どんきほうて』、和風、陶芸家阿部和唐『陶の声』シリーズ、高村光雲、ロシアアイコン、陶芸家コバーチ・マルギットなどを展示しました。

2) スポーツ関係部門

「スポーツ文化資料室」において、池田理事長から送られた野球資料を展示しました（松井秀喜、イチローのサインボールほか）。また、千葉功氏遺品を展示しました（「記録の手帖」直筆原稿、連載 2,000 回の新聞記事ほか）。

8 月 9 日、小宮山監督以下、早稲田大学野球部のスタッフ・選手がスポーツ文化展示室を見学しました。

4、スポーツ協賛事業

スポーツイベントに積極的に参加し、主催、協賛、実行委員会への参加などによって、地域とのスポーツ交流を促進しました。

① ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会

日時：2024年5月18日～19日

主催：株式会社ベースボール・マガジン社／公益財団法人池田記念スポーツ文化財団

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場

② さわやかジョギング大会

日時：2024年6月2日

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団

会場：八色の森公園周辺特設コース

③ 南魚沼グルメマラソン

日時：2024年6月9日

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

④ 八色の森健康ウォーキング

日時：2024年9月23日

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

⑤ 水無溪谷リバーウォーク

日時：2024年10月20日

主催：水無溪谷リバーウォーク実行委員会

会場：八海山麓サイクリングターミナル周辺特設コース

⑥ 八色の森公園子ども雪まつり

日時：2025年3月9日

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

⑦ 八海山麓スキー場ホワイトカーニバル

日時：2025年3月9日

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

5、収益事業

1) 売店収入

企画展やワークショップなどと連動して、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどを販売して売上げアップを図りました。委託販売のグッズも取り揃え、ショップを充実させました。また、新潟県南魚沼市市政施行 20 周年記念のイベント『おにぎり&ミュージックフェス』の前売りチケットの販売を 7 月 27 日～10 月 25 日まで実施。チケット売上を売店収入とし、前売券販売手数料 5%が収入となりました。

2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピールして売上げをのばしてきました。最近、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうにおいしい」と声をかけられます。2011 年からジェラートを扱い、2013 年からは抹茶、2016 年には冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を開拓。2018 年春からはコーヒーチケットを販売し企画展と連動して販売するなど、引き続き売上増を図りました。

3) スポーツカードショー収入

スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指し収益を図りました。

BBM スポーツカードショー2025 冬の陣 in 浦佐（池田記念美術館）

■日時：2025 年 2 月 1 日（土） 参加者 24 名

4) 委託販売手数料収入

これまで「委託販売手数料」として計上していた「南魚沼産コシヒカリ・ベーマガ米」の販売収入を、令和 5 年度の新米から「売店収入」に変更しました。

5) 施設使用料収入

「新潟日報カルチャースクール」「スポーツ&ライフ南魚沼スポーツ・文化教室」「雪見展」「一箱古本市」など、これまで「入館料」として計上していたものを、令和 5 年度から新たに「施設使用料」として計上。収入の厳密化を図りました。エントランスホールなどを利用する各種イベントの開催や、地域の皆さんによる施設使用料で美術館の収入増加に努めました。